



研究部会報告

● 評価の OR ●

・第9回

日 時：平成 16 年 12 月 18 日(土) 14:00~17:30

出席者：19 名

場 所：政策研究大学院大学

テーマと講師：

(1)「DEA に基づく事業法人合併に関する効率性分析」

小久保秀俊（電気通信大学）

概 要：出力は「売上と FCF」，入力「労働者数と経費」と「労働者数と有形固定資産」を考えた 2 種類の 2 入力 2 出力 DEA により，事業法人の合併後の効率性を時系列で評価した．CCR モデルならびに BCC モデルを考慮した．

(2)「数理計画法を用いた双対尺度法」

上田 徹（成蹊大学）

概 要：双対尺度法に対して，回答者間分散最大化，回答者間分散と評価対象間分散の和最大化，等の数理計画定式化を与え，西里法と比較した．さらに，複数評価者による一対比較データに適用する方法を考案した．

(3)「米国短期留学報告……AHP と DEA の発祥地と人を訪ねて—AHP と DEA の共通視点とその発展—」

篠原正明（日本大学）

概 要：代替案の便益データベクトル，費用データベクトル，各評価ベクトルの中でどの変数が与えられるか（どれが自由変数か），目的関数の形状などに注目して，AHP と DEA の枠組を整理し，マインド遷移モデルに基づきその発展方向を考察した．

(4)「Scale, Scope and Capacity Utilization in DEA」

Biresh K. Sahoo

(Amrita School of Business, Amrita Vishwa Vidyapeetham, India)

概 要：多段生産プロセスにおいては，中間段での加工時間の不揃いにより生産能力の空き (idle capacity) が生じる．生産能力の空き，生産稼働率 (capacity utilization)，単一製品に対する規模の経済性効果，多種製品に対する範囲の経済性効果，の間の仮説を各種 DEA モデルを用いて実証的に検証した．

● 意思決定と OR ●

・第10回

日 時：3月12日(土) 14:30~17:00

出席者：9 名

場 所：富山県民会館 301 会議室

テーマと講師：

(1)「パケット転送遅延時間の測定と busy level 評価法について」

清水和宏，小林 香，片山 勤

（富山県立大学工学部）

概 要：低遅延・低遅延揺らぎを要求する音声・動画等インターネット通信における品質保証を目的に，2 端末間のパケット伝送遅延時間の測定データと要求品質（許容遅延時間）に基づき busy level 評価手法を提案した．これにより，2 端末間のネットワークの混雑程度を定量的に 5 段階評価することができ，実際の評価を数例提示した．

(2)「介護保険における負担と給付の市町村格差について—石川県の事例を用いて—」

金子宏之（小松短期大学）

概 要：介護保険における負担と給付を特徴づけるため，石川県のデータを用いてクラスター分析による市町村のグループ分け，および単純回帰分析を行った．その結果，石川県においては相対的に高負担・低給付の市町村が多く，また，給付額に応じて保険料が高くなる，社会保険としての運営がなされていることがわかった．

第6回理事会議題 (17-3-9)

平成16年度第5回理事会議事録の件
入退会承認の件
新フェロー推薦の件
平成17年度役員名簿の件
平成17年度・18年度役員候補者選任の件
広報委員会担当事項と運営体制の件
プライバシーポリシーの件
学会賞授賞候補推薦の件
平成17年度事業計画(案)及び
収支予算(案)の件
研究普及委員会規定改定の件
第16回RAMPシンポジウムの件
第17回RAMPシンポジウムの件
中国との協定書案の件
秋季研究発表会の件

会合記録

3月2日(水)	庶務幹事会	8名
3月3日(木)	研究普及委員会	9名
3月9日(水)	理事会	18名
3月16日(水)	研究普及委員会	14名
	論文誌編集委員会	9名
3月18日(金)	機関誌編集委員会	9名
